特集「並列処理」の編集にあたって

雨 宮 真 人†

ここにお届けする「並列処理」特集は例年どおりJSPP (Joint Symposium on Parallel Processing) に基づくものである.「1995年並列処理シンポジウムJSPP'95」(実行委員長：雨宮真人) は本学会の6研究会 (計算機アーキテクチャ，データベースシステム，システムソフトウェアとオペレーティングシステム，アルゴリズム，プログラミング－言語・基礎・実践－，ハイパフォーマンスコンピューティング) と電子情報通信学会の2研究会 (コンピュータシステム，データ工学) および人工知能学会の並列人工知能研究会の共催，さらに日本ソフトウェア科学会と日本応用数理学会の協賛により，1995年5月に福岡において開催された．本特集号はJSPP' 95で講演された一般論文46件の著者に投稿を呼びかけ，その中から通常の査読手続きにより採録された論文を掲載したものである．JSPPは昨年の開催で7回を数え，日本および海外における並列処理研究の最新の成果を発表し討論する場として，着実な発展をみせている．特に昨年からは論文原稿による査読に踏み切り，さらに充実した内容となった．今や日本の並列処理研究の発表・討論の場として中心的な役割を果たしていると言ってもよいであろう．

JSPPでの発表をもとにして編集した「並列処理」特集号も本号で7回目となる (過去6回は第30巻12号，第32巻7号，第33巻3号，第34巻4号，第35巻4号，36巻7号)．JSPPで発表された研究をその場の討論を踏まえてさらに発展させ，学術論文として投稿を促し，編集するという「並列処理」特集の編集方針もだいぶ定着してきた感がある．特に，2年前の論文誌規約改正により「情報処理学会の主催・共催を問わずに学術雑誌の論文以外の発表は，すべて途中経過と見なし，既発表論文と見なさない」ということになり，JSPP発表の際に多くの研究者が本誌への投稿を意識するようになってきた．当該分野の研究成果を学術論文化することが一般に浸透してきたことは喜ばしいことである．一方，このことが論文誌の質の低下につながるのではないかという心配もつきまとう．しかし，論文査読にあたっては通常論文と同じプロセスを踏み，学術誌の論文という観点から厳密な査読を行っており，十分に内容の充実した論文が収録されている．

本特集号には23件の論文が収録されている．内容は，プログラム検証，コンパイラ，デバッガ，OS，細粒度並列処理，分散共有メモリ，プロセッサ間通信，相互結合網，I/Oシステム，性能評価，応用，と多岐にわたっているが，その多くはソフトウェアの視点にたった論文である．ここ数年,「並列処理」特集号はソフトウェアの比重が増してきているが，本特集号でもその傾向はさらに著しくなってきているといえる．ただ，基礎理論と応用の論文がまだ少ないことにはものたりなさを感じる．

本学会論文誌原稿の電子化の先駆けとして本特集号で2年前に始めたLaTeXによる原稿作成もかなり定着してきた．ちなみに，今回の特集号では，投稿原稿の84%はLaTeXによるものであり，最終原稿の段階ではすべての原稿がLaTeX化されている．

本特集号の編集にあたっては，次のメンバで特集号編集委員会を設置し，作業を行った．

雨宮 真人 (九州大学，JSPP'95実行委員長)
斉藤信夫 (慶應義塾大学，同プログラム委員長)
天野 英晴 (慶應義塾大学，論文誌編集委員)
木村康則 (富士通研究所，論文誌編集委員)
中田登志之 (日本電気，論文誌編集委員)
村上和彰 (九州大学，JSPP'95プログラム幹事)
日下部 茂 (九州大学，同プログラム委員)

特に，投稿原稿の受け付け，査読管理，採録論文の編集等いっさいの編集作業は天野氏，中田氏，日下部氏の献身的努力によるところが大きい．ここに深く感謝申し上げる．また，論文査読に際しては，関係各位にはJSPP論文の査読に加えてさらに本特集論文の査読と多大のご無理をお願いしたが，本特集の意義と趣旨をご理解いただき，ご協力をいただいた．この場を借りて感謝の意を表したい．

最後に本特集号が並列処理研究のますますの発展に寄与することを願って本稿の結びとする．

† 九州大学大学院システム情報科学研究科